【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成19年5月10日(2007.5.10)

【公開番号】特開2002-345990(P2002-345990A)
【公開日】平成14年12月3日(2002.12.3)
【出願番号】特願2001-162320(P2001-162320)
【国際特許分類】
Ａ６２Ｃ　35/68　(2006.01)
Ａ６２Ｃ　35/60　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６２Ｃ　35/68
Ａ６２Ｃ　35/60

【手続補正書】
【提出日】平成19年3月19日(2007.3.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　閉鎖型スプリンクラヘッドが接続された二次側配管、基端側が給水本管に接続された一次側配管、及び該一次側配管と前記二次側配管との間に設けられた流水検知装置を有し、前記二次側配管内に常時充水されたスプリンクラ消火設備において、
前記配管に設けられた常開の制御弁と、前記流水検知装置が動作して流水信号を出力したときは、前記制御弁を直ちに閉止する閉止信号を出力する制御装置とを備えたことを特徴とするスプリンクラ消火設備。
【請求項２】　前記スプリンクラヘッドと同じ防護区域内に火災感知器を設け、前記制御弁を直ちに閉止して、一次側配管と二次側配管とを遮断した状態で、所定の時間、前記火災感知器から火災信号が送られてくるのを待ち、火災信号がないときは前記制御弁の閉止状態を継続することを特徴とする請求項１記載のスプリンクラ消火設備。
【請求項３】　前記二次側配管に排水弁を接続し、前記火災信号がないときは該排水弁を開放することを特徴とする請求項２記載のスプリンクラ消火設備。
【請求項４】　前記スプリンクラヘッドと同じ防護区域内に火災感知器を設け、前記制御弁を閉止したのち前記火災感知器からの火災信号の有無を判断して、火災信号があるときは前記制御弁を開放し、その後、前記流水検知装置からの流水信号の有無を再度確認することを特徴とする請求項１記載のスプリンクラ消火設備。
【請求項５】　前記制御装置に火災断定スイッチを設け、前記制御弁が閉止したのち前記火災断定スイッチがＯＮされたかどうかを判断し、該火災断定スイッチがＯＮされたときは前記制御弁を開放することを特徴とする請求項１記載のスプリンクラ消火設備。
【請求項６】　閉鎖型スプリンクラヘッドが接続された二次側配管、基端側が給水本管に接続された一次側配管、及び該一次側配管と前記二次側配管との間に設けられた流水検知装置を有し、前記二次側配管内に常時充水されたスプリンクラ消火設備において、
前記配管に設けた常開の制御弁と、前記流水検知装置が動作して流水信号を出力したときは前記制御弁を閉止する閉止信号を出力すると共に、前記二次側配管と排水本管とを接続させる制御装置とを備えたことを特徴とするスプリンクラ消火設備。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
【課題を解決するための手段】
（１）本発明に係るスプリンクラ消火設備は、スプリンクラヘッドが接続された二次側配管、基端側が給水本管に接続された一次側配管、及び該一次側配管と前記二次側配管との間に設けられた流水検知装置を有し、前記二次側配管内に常時充水されたスプリンクラ消火設備において、前記配管に設けられた常開の制御弁と、前記流水検知装置が動作して流水信号を出力したときは、前記制御弁を直ちに閉止する閉止信号を出力する制御装置とを備えたものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
（２）上記（１）のスプリンクラ消火設備において、前記スプリンクラヘッドと同じ防護区域内に火災感知器を設け、前記制御弁を直ちに閉止して、一次側配管と二次側配管とを遮断した状態で、所定の時間、前記火災感知器から火災信号が送られてくるのを待ち、火災信号がないときは前記制御弁の閉止状態を継続するようにした。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
（４）上記（１）のスプリンクラ消火設備において、前記スプリンクラヘッドと同じ防護区域内に火災感知器を設け、前記制御弁を閉止したのち前記火災感知器からの火災信号の有無を判断して、火災信号があるときは前記制御弁を開放し、その後、前記流水検知装置からの流水信号の有無を再度確認するようにした。